

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名：天理市環境連絡協議会
上位関連計画にみる地域の将来 ○地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成 ○本年改定の基本計画では、2030年に実現を目指す再生エネの電源構成比率：36～38% ○現在の天理市人口：64,119人、将来：59,125人（2030年）,52,481人（2040年）,38,795人（2060年）（天理市推計） ○地球温暖化防止への取り組み 市域の温室効果ガス排出量(t) 現状：412,157(2011年) →目標：403,094（2024年） ○廃棄物対策 ゴミ総排出量原単位(g/人・日) 現状：1,001(2011年) →目標：893（2024年）

②具体的な取組 ・水と緑のネットワーク： 「山の辺の道・SDGsエコミュージアム・構想」（地域ぐるみのミュージアム化） 「SDGsの森づくり構想」（里山・竹林のモデル的管理と利活用の検討） ・地域共生再生エネ： レジリエンス太陽光発電を公共施設に導入することからはじめ、民間建物にも導入検討する。さらに耕作放棄地、農地に農業経営と両立できる営農型ソーラーの導入検討や、里山整備を兼ねたバイオマス活用を検討する ・まちづくり： 大学生を中心に、中高校生や地域の方との積極的な連携によって、休耕田の再利用・商品開発・商店街の再生などの活動と環境資格の認定による環境人材の養成を行う。

①ありたい未来 自然、歴史、文化を活かしながら、良い市民生活ができるよう、エコロジー・エコノミーの両立と災害地域に強いまちを目指す。そのため、地域と共生する再生エネの導入拡大によるゼロカーボンシティ実現、新電力ビジネスによる地域経済向上を目指す。また、日本最古の古道「山の辺の道」沿いの自然・歴史・文化財・くらしなどの地域資源を、ICT等を活用して発信する。さらにそれらの地域資源を生かした商品開発と、イチョウ、ホテル等の環境をアピールしたエコツーリズムビジネス創出、さらに宿泊型体験教育プランを実現し、全国の学生やインバウンド観光客を誘致する。
--

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	実績値 (2022年度末)	単位
環境	里山・竹林整備	課題、解決方法の検討	5	5	8	回
	SDGsの森づくり	内容の検討会	3	3	3	回
	街路樹プロジェクト	健康度調査、提言の検討会	10	10	6	回
	ホテル舞うまちづくり	ホテル・水質調査、提言の検討会	8	8	6	回
	レジリエンス太陽光発電システム	公共避難所で導入	0	50	56	kW
	地域共生再生エネの取り組み	3つのプロジェクト検討	0	3	3	回
	休耕田の活用・ピオトープ	ひまわり畑・菜の花畑訪問者		500	500	人
	「SDGsエコミュージアム・構想」	検討会	3	3	3	回
経済	SDGsの森づくり（バイオマス利用）	マキ、椎茸原木、竹利用など検討	1	5	3	回
	街路樹で集客	課題と検討会	3	5	4	回
	地域共生再生エネの地産地消	防災兼用再生エネの地域活用	無し	1	1	件数
	再生エネのふるさと納税活用	地域新電力ビジネスの具体化	無し	検討	検討	—
	地域産品の創出	天理市関連商品	2	2	2	商品
	域外から稼ぐ（ガストロノミーエコツアー）	エコツアー実施	0	2	2	件
	商店街の再生	若者の商店街利用促進（認定ステッカー配布）	0	3	3	件
	社会	SDGsの森づくり（引きこもり支援）	取組の検討会と実践例	0	検討中	検討中
SDGsの森づくり（環境教育の場）	取組の検討会と実践例	1	3	3	回	
災害対応に優れたまち	停電時自立型再生エネシステムの導入	0	1	1	件数	
地域脱炭素化を担う人材	再生エネ事業を進める地域人材育成対策	検討開始	対策立案	検討中	—	
環境人材の養成	環境資格の認定	0	数名	数名	人	
地域への愛着	メディア掲載回数	6	10	10	件	

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	SDGsの森づくり	プラン作りと実働	1	3	2030年度	3	件
	街路樹プロジェクト	落葉処理と街路樹の更新	別資料	検討中	2030年度	検討中	
	ホテル舞うまちづくり	取組検討会とホテル調査	5	5	2030年度	ホテルの増	回
	新クリーンセンター建設	発電量と熱利用	0	建設中	2030年度	5,000	kW
	レジリエンス太陽光発電システム	公共、民間導入件数	0	20	2030年度	50	件
	営農型ソーラー	耕作放棄地を農地に還元	0	0	2030年度	50	件
	里山地域共生再生エネ	バイオマス、小水力の実現	0	検討中	2030年度	5	件
	休耕田の活用・ピオトープ	ひまわり畑・菜の花畑訪問者	200	500	2030年度	1,000	人
経済	SDGsの森づくり（バイオマス利用）	経済的価値の評価	0	検討中	2030年度	検討中	円
	街路樹で集客	経済的価値の評価	不明	検討中	2030年度	検討中	円
	小規模バイオマス熱電併給システム	天理市内でモデル化	0	1	2030年度	5	件
	地域共生再生エネの地産地消	地域共生再生エネで限りなく自立	0	モデル化	2050年度	ほとんど自立	比率
	再生エネのふるさと納税活用	地域新電力ビジネス実現	無し	検討	2030年度	実現	—
	地域産品の創出	天理市関連商品	2	5	2030年度	5	商品
	域外から稼ぐ（ガストロノミーエコツアー）	エコツアー実施	0	2	2030年度	16	回
	商店街の再生	若者の商店街利用促進（認定ステッカー配布）	0	10	2030年度	50	件
社会	SDGsの森づくり（引きこもり支援）	プラン作りと実働	0	1	2030年度	検討中	件
	SDGsの森づくり（環境教育の場）	プラン作りと実働	1	モデル化	2030年度	検討中	件
	SDGsの森づくり（森の幼稚園）	プラン作りと実働	0	1	2030年度	1	件
	災害対応に優れたまち	避難所自立型再生エネシステムの導入	0	モデル具体化	2050年度	100	%
	地域脱炭素化を担う人材	再生エネ事業を進める地域人材確保	0	対策立案	2030年度	10	人
	環境人材の養成	環境資格の認定	0	数名	2030年度	20	人
	地域への愛着	メディア掲載回数	6	10	2030年度	20	回

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

環境分野		短期	長期
水と緑のネットワーク	モデル的な里山・竹林・街路樹・ホテル再生などの提言をまとめ、具体化する。		提言等をさらにバージョンアップし、天理市、市民活動団体、企業などと連携し、実現可能なプランから実行する
地域共生再生エネ	公共避難所での再生エネ導入ポテンシャル調査を行い、レジリエンス太陽光発電システムを中心にモデル化を検討		公共、民間建物屋上P P A太陽光、営農型ソーラー、里山再生エネ等天理の地域特性に合わせた地域共生再生エネの導入拡大
経済分野		短期	長期
水と緑のネットワーク	計画中の新クリーンセンターについて、発電、熱利用、防災対応について提言をまとめる		木質バイオマス利用についても立案し、小規模の発電所を建設し、カーボンニュートラル、森林保全のため利活用する
水と緑のネットワーク	市街地の街路樹・ホテル・山の辺の道沿いの自然、史跡、文化・生活などを有機的に連携し、利活用する。		現在でもこれらの場所は魅力のある場所であるが、連携するこちによって集客力をアップし、地域経済に貢献していきたい
地域共生再生エネ	地域共生再生エネの地産地消のモデル化検討		天理市内電力需要を限りなく自立を目指すとともに地域新電力ビジネス実現し、再生エネ電気をふるさと納税活用し、域外からの収入を獲得
社会分野		短期	長期
水と緑のネットワーク	「SDGs森づくり」では①人材の森づくり、②健康の森づくり、③バイオマスの森づくりのプランの検討		山の辺の道沿いの里山・里地の環境保全と利活用（バイオマス、環境教育の場など）
地域共生再生エネ	公共避難所導入による災害に強いまちにつながるモデル化を図るとともに、地域共生再生エネの周知を図る		避難所にレジリエンス太陽光発電システムの標準設置を目指す。 天理ゼロカーボンシティ実現を支える地域中核人材の確保
まちづくり			
短期から長期へ同じベクトルを伸ばしていきたいと考えている。各プロジェクトの連関により認知度を高め、参加者（協力者）を集めるとともに、地域資源を最大限に活用することで、地域の良さを市民に分かってもらうこと、人々のつながりによるコミュニティの強化をもとに「住み続けられるまち」を目指していく。具体的には、ガストロノミーエコツアーや休耕田の観光資源化を通して域外からの収入を得るとともに、訪れた人の商店街や市内へ循環の輪を創り出すことで経済効果を得る。天理市最大のインフラである商店街を守り、また訪れてもらえるまちを目指していく。また、環境人材の育成により、他のプロジェクトへの波及を期待している。			
※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください			